

# ハンガリーの億万長者

盛田 常夫

今、ハンガリー社会の話題は、5つの数字を言い当てる「ウトウシュ・Lotto」である。今年3月から当たりがなく、とうとう積み上がった賞金が20億フォリント（11月末現在）を超えた。Lotto賞金は所得税を免除されるから、これだけの金額になると、毎週1000万通を超える応募がある。郵便局、スーパーなどで、1枚130フォリントのシートに、1から90の数字から5つをチェックして応募する。もちろん、1人の応募数に制限はない。国境近辺の町では、ユーゴ、ルーマニア、オーストリアからの住民が、一攫千金を狙って応募シートの販売所に並んでいるという。毎週土曜日の夕方が締め切りで、土曜日はどこも長い行列になっている。

それにしても、これまでに数億枚の応募があっただろうに、3月から当たりの組合せが出ていない。それほど5つの数字の組み合わせが多いということか。計算すれば分かることだが、90個の数字から重複を許さないで、5つの数字を取り出す組合せは、およそ4,400万通りある。これを漏れなく記入するには、50億フォリントを超える応募料と記入の時間暇が必要だから、20億フォリントの賞金ではまだ割が合わない計算になる。

これだけ当たりがないと、どうするのだろうかと他人事ながら心配になるが、1年を経て当たりがない場合には、分配方法を変更して、4つの当たり、3つの当たり、2つの当たり等々で分けてしまうそうだ。「物はためし」ということもある。応募しなければ当たる確率はゼロ。応募すれば、何がしかの確率はあるわけだ。

## 億万長者番付

11月中旬、日刊紙のMagyar Hirlapは、別冊で『ハンガリー：100人の億万長者』を発売した。第1位がFotexの創業者ヴァールセギ・ガーボルで、400億フォリント（200億円）。第100位の資産額は25億フォリント（12.5億円）である。Lottoで20億フォリントの賞金を得ても、まだ100位には届かない。100名の資産総額は6000億フォリント（3000億円）になる。ハンガリー経済の規模に合ったレベルと言えようか。もちろん、このランキングは表に出ている公式の数字から推定したもので、裏でどれほどの資産が形成されているか、知りようもない。

ヴァールセギは1970年代に人気のポップグループを率いたミュージシャンだった。その後アメリカに渡り、お金を稼いでハンガリーに戻り、個人事業が自由化された1984年に1100万フォリントを投資して、Fotex社を設立した。今でこそ、いろいろな事業を手がけているが、最初は写真フィルムの現像・プリントサービスの会社だった。1980年代の初めのハンガリーではカラーフィルムの現像ができず、ウィーンにフィルムを持っていき、べら棒に高い料金を払ってプリントしてもらったのを覚えている。だから、このビジネスは大当た

りだった。ノボテルホテルの後方に聳え立つ「Fotex ビル」は 1990 年代の初期に建設されたものだ。それほどこのビジネスは当たった。

詳細に記述する紙幅はないが、100 位の中にこの種の新興の事業家が 3 割ほど見られる。これらの人々は市場経済への移行のチャンスをもとにした、ハンガリーの新しい型の実業家である。主として、缶詰、農産物、畜産物など食品加工業で財を成した人が多い。毎日食べる物を相手にするビジネスだから、マーケットはある。社会主義時代にはほとんど選択の余地がなかった食料品を、西欧のスーパーで並んでいるような多様な品揃えに変えるだけで、大きなビジネスになった。

このような新しい型の実業家は、いわば「市場の空白」を利用し、そこに商品やサービスを流すことでビジネスを築いた人々である。中欧の体制転換諸国には、他の国に比べて、このような「真っ当な」実業家の割合は大きい。

ランキングに並ぶ人々の職種で多いのは、「投資家」という訳の分からない職種である。正確に勘定していないが、この数は「真っ当な」実業家より多い。土地のブローカーから金融ブローカーまで、種々雑多である。ブダペストの不動産の価格水準は西欧に比しても高い。1990 年代初期に外国からの直接投資が入り込み、いわゆる外人の人口が急激に増えた。その煽りで、高級住宅や不動産が軒並み高騰し、異常な不動産ブームになった。不動産ブローカーや建設業が儲かるビジネスになった。

ここまでまだ理解可能だが、「金融ブローカー」や、ただの「投資家」になると、だんだん中身が怪しくなる。

## 民営化、国家予算、国営銀行

なんと言っても、過去 10 数年の体制転換プロセスで資産形成の最大の源泉になったのは、民営化資産である。体制転換のドサクサに紛れて、ただ同然で国家資産を「横領」した者も多い。大雑把に見て、2 割弱がこれで財産を成した連中。「真っ当な」実業家の多くも、国営企業を安価に分けてもらい、それを再建した人々である。

さらに、1990 年代に 2 度にわたっておこなわれた不良債権の予算処理で、国営銀行の融資債務の「徳政令」が実行された。これでチャラにされた銀行融資が 4000 億フォリントを下らないし、不良債権処理を受けなかったポシュタバンクは 1 行だけで 1500Ft の累積損失を記録している。このような不明瞭なお金の流れから、「金融ブローカー」が育った。この種の「投資家」が 2 割ほどいる。ここまでが社会党政権時代の出来事。

それから、最近の傾向としては、道路建設など公共事業の受注で儲けた連中。これが 1 割ほどいる。FIDESZ 政権になってあからさまになった予算の分捕りである。

もっとも、ハンガリーの億万長者が束になっても敵わないのは、ロシアの億万長者である。第 1 位のホドルコフスキーの資産額は、30 億とも 40 億ドルとも言われる。連載「ロシアの億万長者」で解説したので繰り返さないが、彼の場合は石油会社 **Jukos** の株の取得が資産の源泉である。ハンガリーと異なり、ロシアには世界有数の石油・ガス会社が存在

している。1990年代の半ばまでに、クレムリンの権力を利用して、これらの会社の株式が二束三文の価格で一部の「経営者」の手に渡った。少なくともロシアの億万長者の上位10名は、皆、この手で資産を形成した連中だ。その代価として、ロシア社会は「囑託殺人」による暗殺が年中行事になるという犠牲を払っている。

言うまでなく、世界一の長者はビル・ゲーツ。資産額は500億ドルを超える。人口1千万のハンガリーが1年間に創出するGDPに匹敵する。ソロスの資産は70億ドルと報じられている。ちなみに、ドル換算でヴァールセギの資産は1.7億ドルである。

2002年12月